

第 22 回炉物理部会総会議事録

日時：9 月 17 日(2004 年日本原子力学会秋の大会 3 日目) 12:00～13:00

場所：京都大学 吉田キャンパス B 会場(工学部物理系 101 号教室)

議事

(1) 次期副会長候補について(島津部会長)

次期副部会長として関本博先生(東京工業大学)の推薦があり、承認された。

(2) 企画委員報告(石川委員(サイクル機構))

1. 島津部会長(北大)から青木委員(EDC)への企画委員の交代があった。現在は部会には、在任中の石川委員(サイクル機構)に加えて 2 名の企画委員。
2. 「原子炉炉心計算法の高度化」研究専門委員会(竹田先生主査)編纂の「原子炉炉心計算法の高度化の現状と展望」は、制作費 40 万円に対して現在 64 万円余の収入となっており、財政健全化に貢献。
3. 42 回原子力総合シンポジウム『原子力は社会の説明責任をいかに果たすべきか』5 月 27・28 日に開催、従来の倍の参加者があった。
4. 企画委員会のありかた試案において、企画委員会を部会員の代表の集まりとするという案が福田前企画委員長より提案があったが、現在のところ継続審議。
5. 学会の共催・協賛のルールに乱れがあり、是正が必要。
6. 春の年会の企画セッションについて 11 月 12 日で討議される。部会で何かの提案があれば、これに間に合わせるよう提案する。

(3) 編集委員会報告(中島委員(京大炉))

1. 7 月より編集体制の変更があり、炉物理関係(301～304)では小原(正、東工大)、中島(副、京大炉)、ほか桜田(東芝)、辻(北大)、中野(三菱重工)、丸山(GNF-J)、山本(名大)の計 7 名による編集体制。
2. 投稿規定の変更があり、査読審査の結果としてカテゴリ(Original paper、Technical Paper、など)の変更が必要と判定された場合は、「掲載否」扱いとなる。
3. 投稿数が増えている。査読依頼には快く受けて欲しい。

(4) 炉物理研究委員会報告(岡嶋・炉物理研究委員会幹事(原研))

1. 岩村氏(原研・エネルギーシステム研究部長)が新委員長に就任。
2. 7 月 2 日に委員会が開催され、OECD/NEA の活動報告が中心。
3. WP としては「加速器駆動未臨原子炉 WP」と「炉物理実験データの保存 WP」が

活動中。

(5) 16 年度活動中間報告

(i) 部会予算報告(中島委員(京大炉))

1. 平成 16 年度炉物理部会予算収支中間報告があった(資料 5-(i))。
2. 日韓夏期セミナーへの講師 1 名と学生 1 名の派遣にともなって、特別予算・海外研究集会派遣・招聘事業費から派遣費が支出されたことが報告された。
3. 日韓炉物理国際会議事業費(今年度は具体案はない)の取り扱いを、次年度予算に向けて検討する。
4. 島津部会長から、外国関係者の学会参加費免除などについて何らかのルール of 制定が必要ではないかとのコメントがあった。(注：韓国では、日本関係者の参加費・懇親会費用が無料とされていた)

(ii) 炉物理夏期セミナー開催報告(山根副部会長(名大))

1. 36 回炉物理夏期セミナーが 8 月 2 日～4 日、岐阜県・高山市で開催。セミナーテーマは「基礎から学ぶ炉心解析」。参加総数は 73 名と盛況であり、30 歳前後の参加者が多かったのが特徴的。
2. テキストに残部があり、購入可能(2,000 円/部)。入手希望の方は学会事務局へ。
- 4 会計報告(3,9942 円の黒字、次年度繰越)があり、了承された。(資料 5-(ii))

(iii) 次年度の炉物理夏期セミナー開催(小原先生(東工大))

1. 次年度の炉物理夏期セミナーは東工大が担当。開催日程は平成 17 年 8 月 9 日(火)～11 日(木)、日光で開催予定。参加人数は 60 名程度、テーマについては検討中。(資料 5-(iii))
2. 東京工業大学 COE-INES(21 世紀 COE プログラム世界の持続的発展を支える革新的原子力)との共催とすることが提案され、了承された。これにより、COE 予算より炉物理夏期セミナーに外国より講師を招聘することができる。承認された後、企画委員会へ報告する予定。

(iv) 日韓サマースクール(山野先生(東工大))

1. 日韓サマースクールが 7 月 26 日～30 日、韓国・浦項(ハポン)市、浦項加速器研究所で開催された。日本側からは炉物理、核データ、加速器ビーム、放射線工学の 4 部会合同で共催。参加者総数 85 名(日本から講師 9 名、学生 19 名)。内容は英語による講義、加速器による実験、2 夜にわたる学生セッション。
2. 来年度は日本で開催の方向。上記 4 部会で検討中。

3. 補足：炉物理部会から講師として岩崎先生(東北大)、学生参加者としては篠原正憲君(武蔵工業大学)を派遣

(v) 日韓ジョイントセッション(島津部会長(北大))

1. 10月28・29日に韓国・春川(チュンチョン)で開催。
2. 炉物理・核データの2部会と加速器ビーム部会で2つの合同セッション実施。日本側から炉物理部会3テーマ、核データ部会1テーマの研究発表を予定。
3. 炉物理部会からの発表者3名の派遣費を特別予算・海外集会派遣事業(若手派遣補助、講師派遣補助)からの支出することが承認された。

(vi) 表彰制度について(島津部会長(北大))

1. 島津部会長より、若手研究者のエンカレッジを目的した部会独自の表彰制度の導入について、その是非を含めて検討すること、またこの検討のための小委員会を運営委員会内に設置することの提案があり、了承された。

(vii) 部会報の発行について(青木委員(ECD))

1. 部会報「炉物理の研究」(第57号)の発行について、発行予定時期、掲載内容、編集進捗状況について報告された。(資料5-(vii))

(viii) 学術交流小委員会報告(宇根崎委員(京大炉))

1. 原子力教育・炉物理教育について議論する場を、来年の春の年會に企画セッションとして企画したい。国内および韓国の教育機関での原子力教育における炉物理研究・教育の現状、産業界における教育・トレーニングの現状について紹介するとともに、今後の炉物理教育の在り方を議論する。小林啓祐先生より、韓国のみならず米国などの現状も考慮してはどうかとのコメントをいただいた。
2. 部会長より、日韓合同セッションなどの学術交流に係わるアナウンス・論文募集については、学術交流小委員会で対応するのが望ましいのとの提案があった。

(ix) 部会合同企画セッション報告(松本委員(三菱重工))

1. 炉物理・核データ部会の部会合同企画セッション「核データ・炉物理研究と社会の係わり(中間報告)」が開催された。会場が満席になるほどの参加者を得た。アクションプラン策定に向けて今後の議論を活性化いくためにも、部会員の協力を望みたい。
2. 昨年度から、上記企画セッションのための意見交換/意見集約の場としてメーリングリスト(ML)が開設されてきたが、MLに登録されてない方で、今後の議論に参加を希望する方や、あるいはこれまでの議論の経緯をお知りになりたい方は、次のア

ドレスに連絡いただければ ML に登録いたします。

連絡先：ishikawa@oec.jnc.go.jp

(x) 若手小委員会(名内委員(電中研))

1. 炉物理夏期セミナーで若手研究会を実施。学生 3 名、社会人 1 名の発表。50 名参加。
2. 日韓サマースクールに学生 1 名派遣

(xi) 部会親睦会(名内委員(電中研))

1. 大会 2 日目の夜に実施、33 名の参加。学生は無料。今後も継続して開催の予定。

(6) その他

(i) "FREDERIC JOLIOT & OTTO HAHN Summer School on Nuclear Reactors

へのお誘い"(宇根崎委員(京大炉))

1. 毎年 8 月に CEA(仏)と FZK(独)の共催による "FREDERIC JOLIOT & OTTO HAHN Summer School on Nuclear Reactors"が開催される。これまでは参加者の多くはヨーロッパと米国が主体であったが、日本からの参加が期待されている。特に、博士課程の学生や若手研究者に推薦できる。今後の案内については、炉物理部会メーリングリストを介してアナウンスする。

(ii) 部会予算健全化/部会報ペーパーレス化の検討

1. 奥村委員(原研)より、炉物理部会年間予算において経常的な赤字状態が続いており、また日韓学術交流のための支出も加わることから、基金が早晩に底を打つ事態も懸念される。炉物理部会報を WEB 化したこともでもあり、経費節約の一助として、ペーパーレス化も視野にいれて検討をしてはどうかとの問題提起があった。
2. 山根副部長から、炉物理部会への収入が大きく見込めない状況を鑑みて、長期的な視野に立って予算の在り方を検討する、中島会計担当幹事(京大炉)からは、ペーパーレス化においては、部会員の皆様の意見を十分に拝聴したうえで検討したいとのコメントが示された。